

いのち

➡ 防災パスポート → ト



ガイド

いのち

安否確認の考え方

安否確認ルールは最も重要です。

大地震発生時は、マンション内での負傷者や閉じ込め発生の可能性があります。それら要救助者への早期対応はもちろん、その後の被災生活において、マンション内でどれだけの方が滞留生活をおくっているかを把握しておきましょう。

救助の考え方

大地震発生時は、マンション居住者が住戸内やエレベーター内などに閉じ込められる可能性やエレベーターが使用できないことにより、上層階に取り残される可能性があります。

外部（消防など）からの助けが難しく、一次対応をマンション内で求められる事が想定されます。

そのような場合に備え、どのような支援を行うのかを考えておきましょう。

情報

くらし

建物



安否確認の方法は、マンションの規模や災害対策本部の組織構成などにより様々な方法があります。

ここでは2つの安否確認方法をご案内します。

各マンションで、効率的に実施できる安否確認方法を検討・選択し、安否確認ルールを決定してください。

安否確認方法

小・中規模マンション向き

1

エントランスに集合

居住者(各住戸の代表者)がマンションエントランスに集合する。

- ①災害対策本部の人員が少人数でも対応が可能です。
- ②居住者に集合してもらうことで、災害対策本部への住民協力の要請がしやすくなる。

[注意事項]

スペースの確保

ひとつの場所に居住者(各住戸の代表者)を集合させるため、集合場所のスペースが必要。



住戸数が100戸程度か10階程度の階層のマンションなど、住戸数が少ないマンションに有効。

安否確認方法

大規模マンション向き

2

安否確認カードの貼付

居住者にて住戸内の安全確認後、玄関扉に『安否確認カード』貼付してもらい、いのち班又はブロックいのち班の担当者が、全住戸を回り確認する。



[注意事項]

人員の確保

いのち班担当者の負担が大きく(全住戸を回るため)、担当者が複数人必要となります。



災害対策本部の人員確保のため、大規模なマンションで有効な安否確認方法になります。